

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	R8年 1月 10日		～ R8年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42人	(回答者数) 32人
○従業者評価実施期間	R8年 1月 10日		～ R8年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 10人
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 5日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 経験年数の多い児童指導員が多く、子ども達の信頼感や障がいに応じた対応が個々の経験により生きている。職員の入替わりが少なく、チーム間の連携が取れている。 各関係機関と連携をとり、子ども達についてしっかり相談出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所のモットーである“やさしさ・思いやり・笑顔”を忘れず、子どもたちにとって安全で安心できる場所であることを一番に考えている。 本人の意思を尊重しつつ信頼関係をより深めるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の人間性や子ども達に対する“寄り添い・共感”をより高め、研修によるスキルアップや職員間で風通しの良い職場にして、よりよい支援に結び付けていく。 送迎時や職員間での話し合いを密にコミュニケーションを取っていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> 部屋数の限られている事業所だが、すべてのルーム内外を視野に入れやすい体制になっているので、安全・安心の支援に繋がっている。 外のスペースを上手く活用して支援の分散が出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つの部屋に籠ることなく、障がい・年齢の枠を超えた交流が可能で小集団の力が身に付きやすいので、一緒に過ごす時間や活動の時間を有効に支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定な遊びに拘らず、子ども達や保護者、職員間での意見交換をしてルーム内外での遊びの幅を広げていく。危険に対する意識や知識を身に付けていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の外遊び(事業内の敷地にスペースあり)による体力の向上、多彩な昼食作りやおやつ作り等による食育等、子ども達の楽しみや向上心につなげている。 季節に合った取り組みをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びから得る、協力する心、譲り合い、ルールやマナーの習得、何よりみんなで取り組む楽しさを体得できる。 食育を通して共に食べる事への興味を持ち、食べる姿勢やマナーを支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節に応じた遊びや食事・おやつメニューを子ども達やスタッフ全員で考案し、楽しみながら基本的な生活習慣を身に付けていく。 お出掛けや外食を経験し、友達と交流する機会や社会性を育てて行く。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 専門職の職員が現在不在なので、特化したプログラムや支援が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 人手不足が要因であるが、事業所の強み等を全面に出している。 専門職員の配置を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現存の職員への外部研修や内部研修を実施し、一人ひとりのスキルアップをめざす。 事業所内の話し合いを頻繁に持つことで一番必要である連携する力を付けていく。 本人の意思決定を大切に信頼関係を築いていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> 支援のためのルームが足りないと感じることがある。 事務室や台所が分離していないので、不便を感じる。 トイレの数が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援し易いという強みでもあるが、その日の状況や個別支援の必要な子ども達によっては居場所作りが難しい。 必要な部屋をどう確保していくかが問題。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の構造により早急な解決は困難だが、外でのスペース作りやパーティションの活用をして居場所作りをしている。施設内のメンテナンスをして視覚的に広さを感じ、過ごしやすさに繋げている。男子用トイレを増設した。
3	<ul style="list-style-type: none"> 職員間での作業負担の差や支援能力の差があり、事務処理や個別支援の負担が片寄ってしまう。 職員の休憩場所が中々確保できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 最終的には人材不足による不公平感であり、職員のリラックス出来る居場所不足等、いくつかの課題が重なりあっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で助け合うことや補い合うことで、より高みの支援を目指している。事務作業の効率化を図り協力することにより、良い支援をしていく。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	キッズ☆ststion東近江				公表日	令和8年3月31日	令和8年3月31日	利用児童数	42人(世帯数42)	回収数	32(無回答有り)	
チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応						
環境・体制整備	1	29	2	0	1	狭そうだが工夫している。外スペースも活用しているようだ。	規定されているスペースは確保しているが、外遊びを活用し分散している。					
	2	27	2	1	1	あまりよくわからないが、きちんと配置していると思う。わからない。	適正に配置している。お出掛け時は職員の人数を増やしている。					
	3	28	2	0	2	バリアフリーの必要な子はいないと思う。	安全の確保は出来ている。危険がないよう工夫している。					
	4	29	1	0	2	狭そうだが、過ごしやすい環境になっている。	昨年ルームを全面改装して清潔・居心地・安全に配慮している。					
適切な支援の提供	5	31	0	0	1	受けられていると思う。	子どもの特性に応じた支援をしていく学びを常にしている。					
	6	31	0	0	1	合っていると思う。						
	7	31	0	0	0	作成されている。						
	8	29	2	0	0	作成されている。よくわからない。	しっかり伝えていきたい。					
	9	32	0	0	0	行われている。						
	10	29	2	0	0	工夫されている。	経験値を上げるためにも新しい。活動を増やしていきたい。					
	11	17	2	2	10	わからない。あまり聞いた事がない。	外遊びやお出掛け時、他の子ども達と交流しているが、今後はもっと対応していきたい。					
保護者への説明等	12	30	1	0	0	説明を受けている。よく覚えていない。	きちんと伝えている。保護者様に分かり易く伝えていきたい					
	13	31	1	0	0	説明がなされている。						
	14	22	4	1	5	わからない。いろいろ相談に乗ってくれる。	面談時や送迎時に家族支援、情報提供をしている。今後研修会の提示を考えていく。					
	15	31	1	0	0	共通理解できている。						
	16	31	0	0	0	支援を受けている。						
	17	30	2	0	0	共感してくれている	職員全員が共感的に支援をしていく。					
	18	8	4	6	14	活動への支援はある。よくわからない。	コロナが第5類に移行したことで次年度、保護者会を予定している。					
	19	25	3	0	2	適切に対応している。	相談や申し入れについては常に周知徹底していきたい。					
	20	31	1	0	0							
	21	30	2	0	0	毎月の通信や子ども達(写真)等で情報は得ている。子どもを探すのが楽しい。	保護者に結果を配布している。ホームページで公表している。					

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	31	1	0	0		スタッフ間で共有し十分配慮している
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	28	1	1	1	作成している。	全て作成している。 分かり易く丁寧に説明をしていく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	28	1	0	3	実施していると聞いている。	年に2回訓練実施、通信にて報告している。資料として
	25	事業所より、ごどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	29	2	0	2	安全を確保している。	安全の確保についてしっかり伝えて行きたい。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	28	0	0	3	説明を受けている。 よく覚えていない。	少しでも家族さんが安心できるよう細やかに伝えていく。
満足度	27	ごどもは安心感をもって通所していますか。	31	1	0	0	友達が出来て明るくなった。	
	28	ごどもは通所を楽しみにしていますか。	32	0	0	0	すごく楽しみにしている。 キッズがあるから学校に行っている。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	32	0	0	0	感謝している。 助けられている。 居場所が出来て嬉しい。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		キッズ☆stion東近江		公表日		令和8年3月31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	3	少し狭いが定員に対してのスペースは確保している。部屋を分ける・外のスペースを有効に使い分散することにより事故・怪我を防ぐ	障がいや年齢の違いがあるので、分散する事により、事故、怪我を防ぎたい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	5	体調不良や介護休暇が増え、送迎員の確保が厳しい時があった。規定されている職員は確保しているがもう少し人手が欲しい。	個別支援に必要な子どもが多い日やお出掛け時は職員の人数を増やすようにしている。職員の人員確保・療育の強化を図ってきたい。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	3	完全なバリアフリーではないが、安全は確保している。段差は多少有るがトイレに手すりがついている。	段差がわかるような工夫とドアや玄関の出入りへの支援をしていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	1	毎日清潔に心掛けきちんと掃除している。毎日業務後アルコール消毒している。子ども達が活動しやすい物の配置を工夫している	昨年施設内メンテナンスをしたので、引き続き清潔安全を維持していきたい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	1	部屋数は少ないが、個別の部屋は状況により確保できている。外の空間を活用することで居場所作りをしている。	手作りパーテーションを作成し場所づくりをしている。クールダウン用の部屋を用意している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	1	問題点は日々話し合い問題点については一つ一つ調査し改善に繋げている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	保護者からの意向を一つずつ調査して改善につなげている。個別面談により実現できている	今後も保護者への意向を聞いていきたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	日々始礼・終礼を実施。定期的に話し合いを設けている。	風通しの良い職場になるよう意見の出しやすい環境作りをする。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3	第三者委員会は設けていない。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	1	外部の研修に参加している。多くの研修に参加して自己研鑽に努めたい。法人内での研修を実施している。	研修で学んだ事を現場で生かせるよう意識を高めていく。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0	作成・公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	0	半年に一度定期的にモニタリング（全員参加）家族さんとの個別面談を実施。職員会議を開き個別支援計画につなげている	保護者・子どものニーズや課題に答えられるようにしたい。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0	職員全員で定期的にモニタリングをし、共通理解をしている。職員会議を開き検討し原案を作成したうえで個別支援計画を作成。	職員全員が共有理解のもと最善の支援をしていく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	1	支援計画書を全員で共有して支援している。キッズノートを活用し全職員が確認して支援している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	1	毎日個別記録を作成し問題点について話し合っている。	インフォーマルなアセスメントを活用できる	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0	面談記録・モニタリング・職員会議等を踏まえてガイドラインに沿った具体的な支援計画を作成し支援している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	0	職員会議で立案している。毎月活動プログラムを相談して取り組んでいる。	チームでの連携を大切にする。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	季節感を考慮した遊びや食育、子ども達の希望を聞いての活動等、工夫している。様々なイベントに参加している。	お出掛けや外遊びの内容が多岐にわたるよう視野を広げていく	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	1	学校と家庭をつなぐ場としての適度な個別活動と年齢を超えた集団活動とのバランスを考え実施している。	集団活動への移行が障がい上スムーズにいかない時がある	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	1	朝礼・昼礼を行い、常に情報共有している。事前準備を行いより良い支援が出来るようチームワークを大切に連携している。		

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	支援終了後必ず終礼を行い、振り返りをして気付いたことを共有し、次の日の朝礼、昼礼においても振り返りしている。	常勤とパートとの勤務時間差を振り返りすることで連携していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	毎日個別記録を作成し問題点について話し合い問題点を共有している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	半年に一度、また必要に応じ行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせず支援を行っているか。	6	0	ガイドラインに沿って複数組み合わせず支援している。話し合いを密にし、基本活動を実施している。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0	自発的に行動できるよう支援している。多彩なアクティビティや活動の中で自己判断できる場を設けている。	自主性を育てる活動を提供する。日常の信頼関係を大切に自己決定の力を伸ばしていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	現場に直結した児童発達管理責任者が出席し関係機関と連携体制をとっている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	各関係機関と定期的に話をして連携をとっている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	毎日確認してスムーズに療育へと移行出来るようにしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	0	相談事業所等と定期的に連絡を取り情報共有と相互理解に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	1	ケース対象となる利用者が少ないが、情報を提供して行きたい。	今後は情報共有していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	0	常時児童発達支援センターと連携を取り児童の状況を話し合うことで専門機関からの助言をいただきながら支援している。	支援事業所開催の研修にも参加していきたい
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	4	公園や公共施設等での地域の子ども達や多事業所の子ども達と交流する機会を設けている。	地域の子ども達と中々活動する機会が持ち難い。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	0	役員として参加している。事業内でお話しているが理解し難い点が多々ある。	他職員への周知が不足しているので、伝えていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	送迎時に必ず子ども達の状況を伝えている。管理者が必要に応じ保護者と連絡を取り合っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3	必要に応じて家族支援を日々行っているため、今後は保護者同士で意見交換できる場を設定していきたい。	家族支援プログラムの必要性を感じている
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	契約時・面談時に実施している。不明な点については対応している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0	定期的に個別面談を行っている。面談記録や個別支援計画を共有している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	支援内容を説明し同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	適切に相談に応じ助言・支援している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	3	4	今年度は書面にて保護者に1年間の活動報告と事業所の状況をお知らせし、活動を支援している。	保護者同士で交流する機会を設けて行きたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	迅速に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8	0	HPを活用している。通信・予定表・子ども達の姿を毎月発信している。	紙面だけの伝達では把握しきれない面が生じてくるのでその都度再確認していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	職員全員に研修をして周知徹底している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	イラストや絵カード、等を活用し本人が理解できているか確認しながら支援するよう配慮している。	

	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	5	外遊びで地域住民と接する時間を大切に子どもたちの様子を知っていたか。	地域住民との活動での直接的な接点を持っていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	全てマニュアル作成し、家族さんに周知している。半年に一度訓練を実施している。	もっとわかり易い形で情報を発信出来るよう検討していきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	BCPを策定し、定期的に訓練している。	BCPの見直しも必要。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	事前に確認し、保護者、各関係機関と連携し全職員で共有して支援している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	現在対象者がいないが、今後受け入れる場合は医師や保護者と連携して支援する必要がある。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	各マニュアル・BCPを作成し研修・訓練事前準備をしている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	安全確保への説明をして家族に周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	ヒヤリハットを作成し、共有、対策を日々実施している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	虐待防止の研修を事業内外共に参加実施し適切に対応している。	ヒヤリハットを活用して虐待防止につなげていく。日々虐待についての振り返りをする。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	身体拘束を行うかは現在策定すべき利用者がいないが、組織的に学んでいきたい。	